

II. 吹田市のまちづくりに関する市民アンケート

1. 調査概要

(1) 調査の目的

まちづくりに関する市民の意見等をお聞きし、総合計画見直しの基礎資料とすることを目的に実施

(2) 調査期間

令和4年（2022年）9月1日（木）～9月16日（金）

(3) 調査対象

無作為抽出による18歳以上の吹田市在住者3,000人
（令和4年（2022年）7月31日時点の住民基本台帳による）

(4) 調査方法

Web アンケート回答用の URL 及び QR コードを記載した回答依頼ハガキを送付し、Web 回答による回収を行った。ただし、Web での回答が難しい対象者には、要望に応じて紙の調査票を郵送し、回答も郵送とした。

(5) 調査項目

- ア コロナや社会状況の変化による生活の変化
- イ SDGs の認知度、注力すべきゴール
- ウ 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度

(6) 回答結果

回収率は以下のとおり

※ 不到達 16 件を発送数 3,000 件から除き算出

図表 II-1 回収率等

発送数	有効回答数	有効回収率
3,000	1,102	36.9%

2. 調査結果

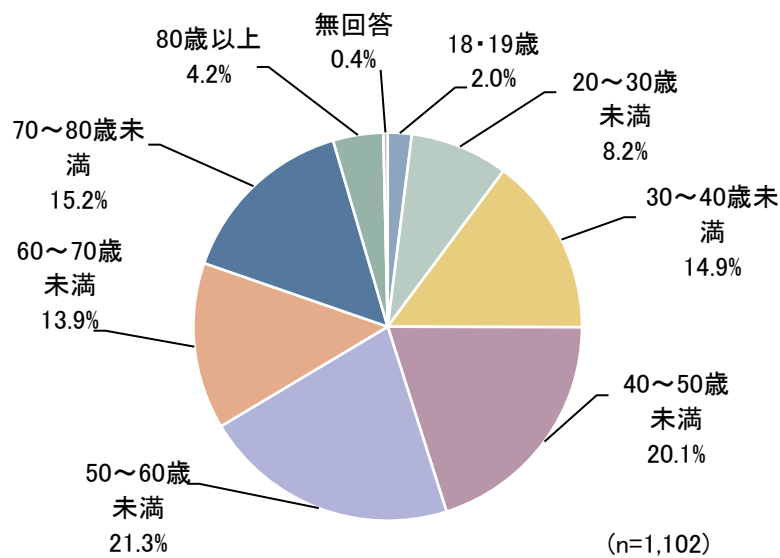
(1) 回答者の属性

ア 年齢

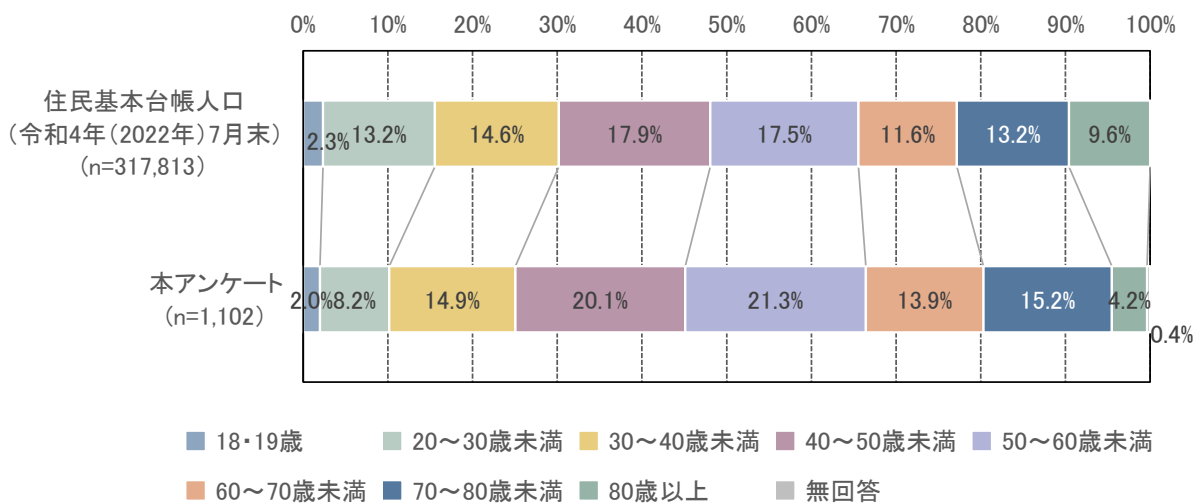
回答者の年齢は、「50～60 歳未満」（21.3%）の割合が最も高く、次に「40～50 歳未満」（20.1%）、「70～80 歳未満」（15.2%）が続く。

本アンケートの年齢別回収率と、アンケート対象者抽出時点（令和4年（2022年）7月末）の年齢別人口比率を比較すると、30～40歳未満、40～50歳未満、50～60歳未満、60～70歳未満で、年齢別人口比率よりも本アンケートの回収率の割合が高くなっている。

図表 II-2 市民アンケート回答者の年齢割合



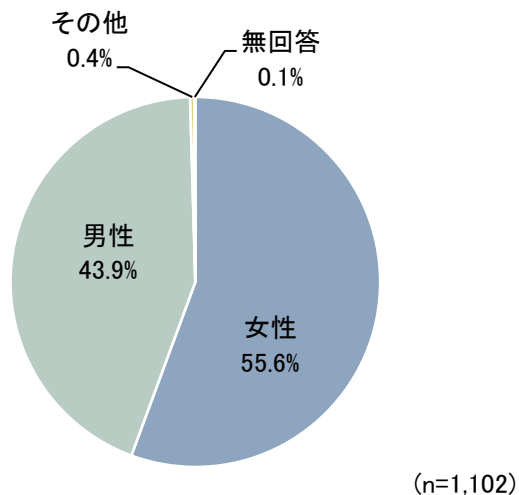
図表 II-3 市民アンケートの年齢別回収率と人口比率の比較



イ 性別

回答者の性別で見ると、「女性」(55.6%)の方が、「男性」(43.9%)よりも回答割合が多い。

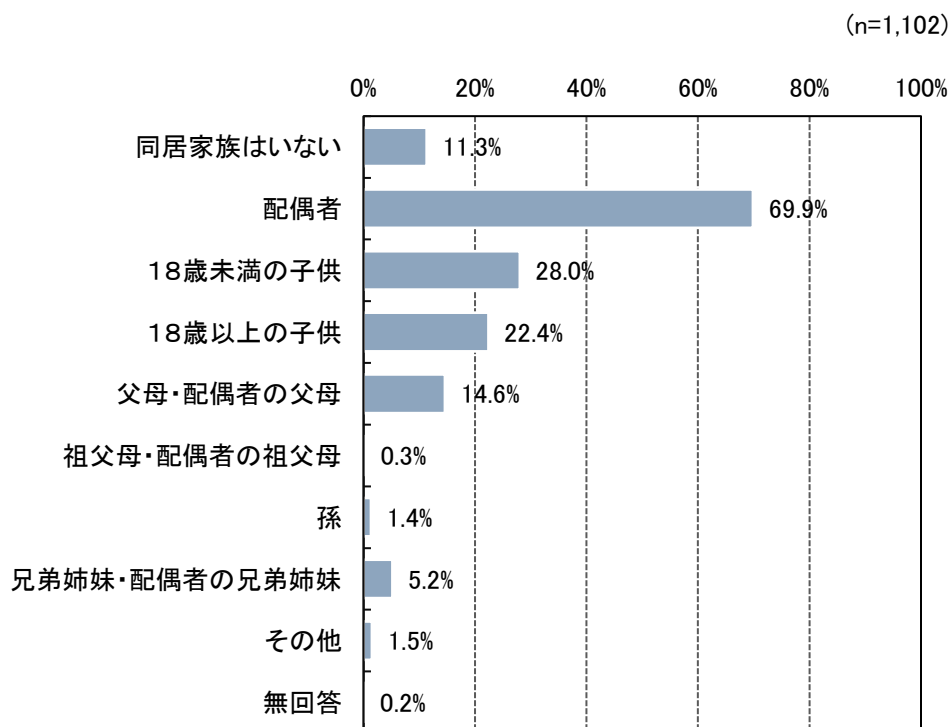
図表 II-4 市民アンケート回答者の性別割合



ウ 同居家族

回答者の同居家族は、「配偶者」(69.9%)の割合が最も高く、次に「18歳未満の子供」(28.0%)、「18歳以上の子供」(22.4%)が続く。

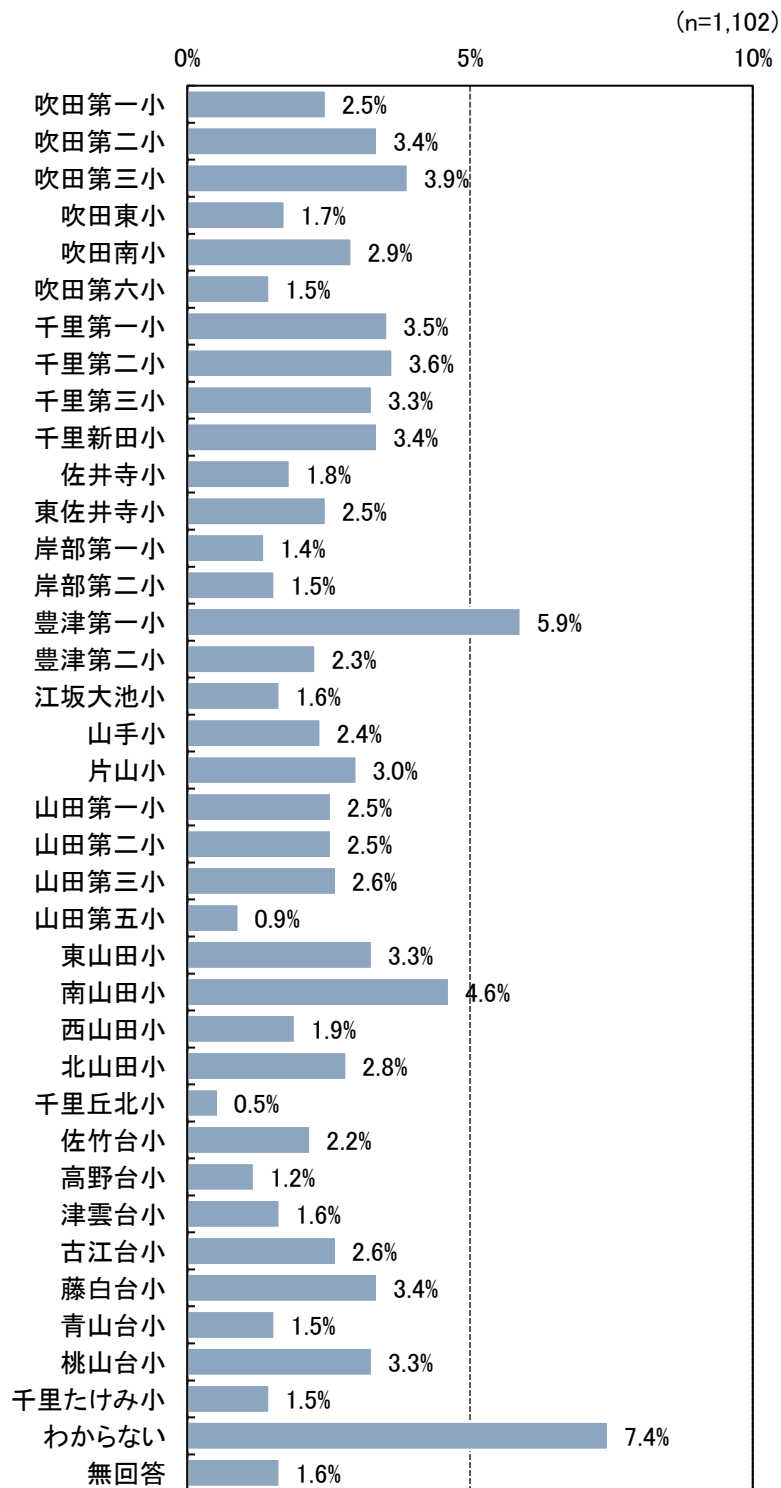
図表 II-5 同居家族



工 居住する小学校区

回答者が居住する小学校区は、以下のとおりである。

図表 II-6 居住する小学校区



オ 居住する小学校区（6つのブロックによる集計）

居住する小学校区を6つのブロックに分類した集計は、以下のとおりである。

なお、当該分類は小学校区に基づいた便宜的なものであり、総合計画に示す6つのブロックとは異なる。

(ア) JR以南地域

吹田第一小学校、吹田第三小学校、吹田東小学校、吹田第六小学校

(イ) 片山・岸部地域

千里第一小学校、岸部第一小学校、岸部第二小学校、山手小学校、片山小学校

(ウ) 豊津・江坂・南吹田地域

吹田第二小学校、吹田南小学校、豊津第一小学校、豊津第二小学校、江坂大池小学校

(エ) 千里山・佐井寺地域

千里第二小学校、千里第三小学校、千里新田小学校、佐井寺小学校、東佐井寺小学校

(オ) 山田・千里丘地域

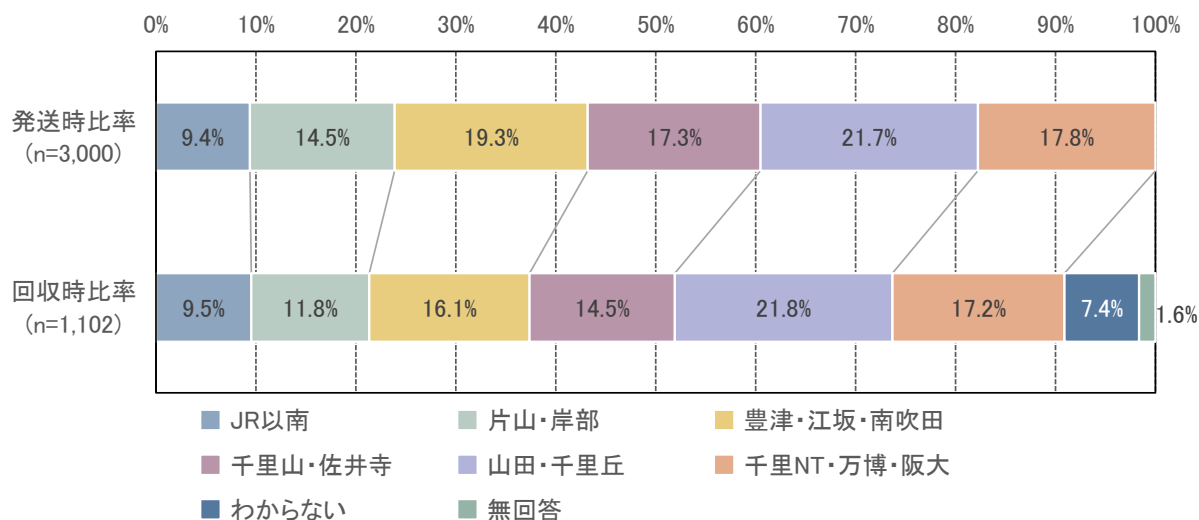
山田第一小学校、山田第二小学校、山田第三小学校、山田第五小学校、東山田小学校
南山田小学校、西山田小学校、北山田小学校、千里丘北小学校

(カ) 千里ニュータウン・万博・阪大地域

佐竹台小学校、高野台小学校、津雲台小学校、古江台小学校、藤白台小学校
青山台小学校、桃山台小学校、千里たけみ小学校

回答依頼ハガキ発送時の地区別発送数比率と、地区別回収時比率を比較すると、回収時の「片山・岸部」、「豊津・江坂・南吹田」及び「千里山・佐井寺」の比率が、発送時よりもやや小さく、また「わからない」と「無回答」の合計が概ね1割となっている。

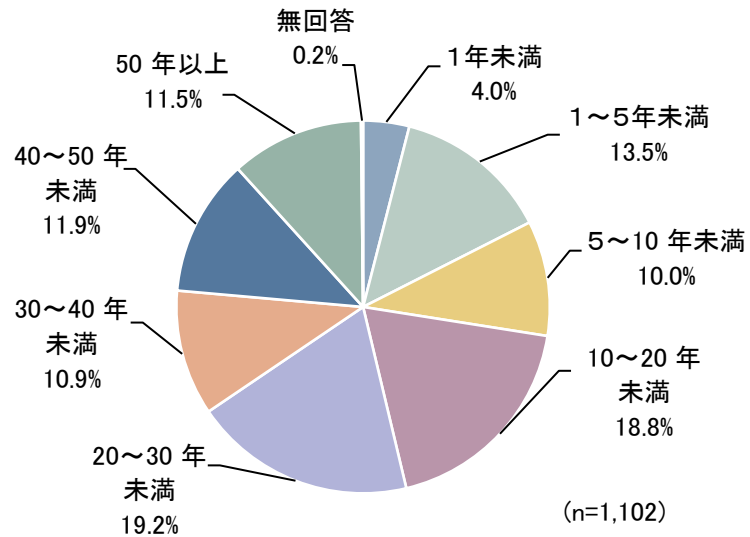
図表 II-7 居住する小学校区(6つのブロックによる集計)



カ 吹田市での居住年数

回答者の吹田市での居住年数は、「20～30年未満」（19.2％）の割合が最も高く、次に「10～20年未満」（18.8％）、「1～5年未満」（13.5％）が続く。

図表 II-8 市民アンケート回答者の居住年数割合



(2) 社会状況の変化の生活への影響

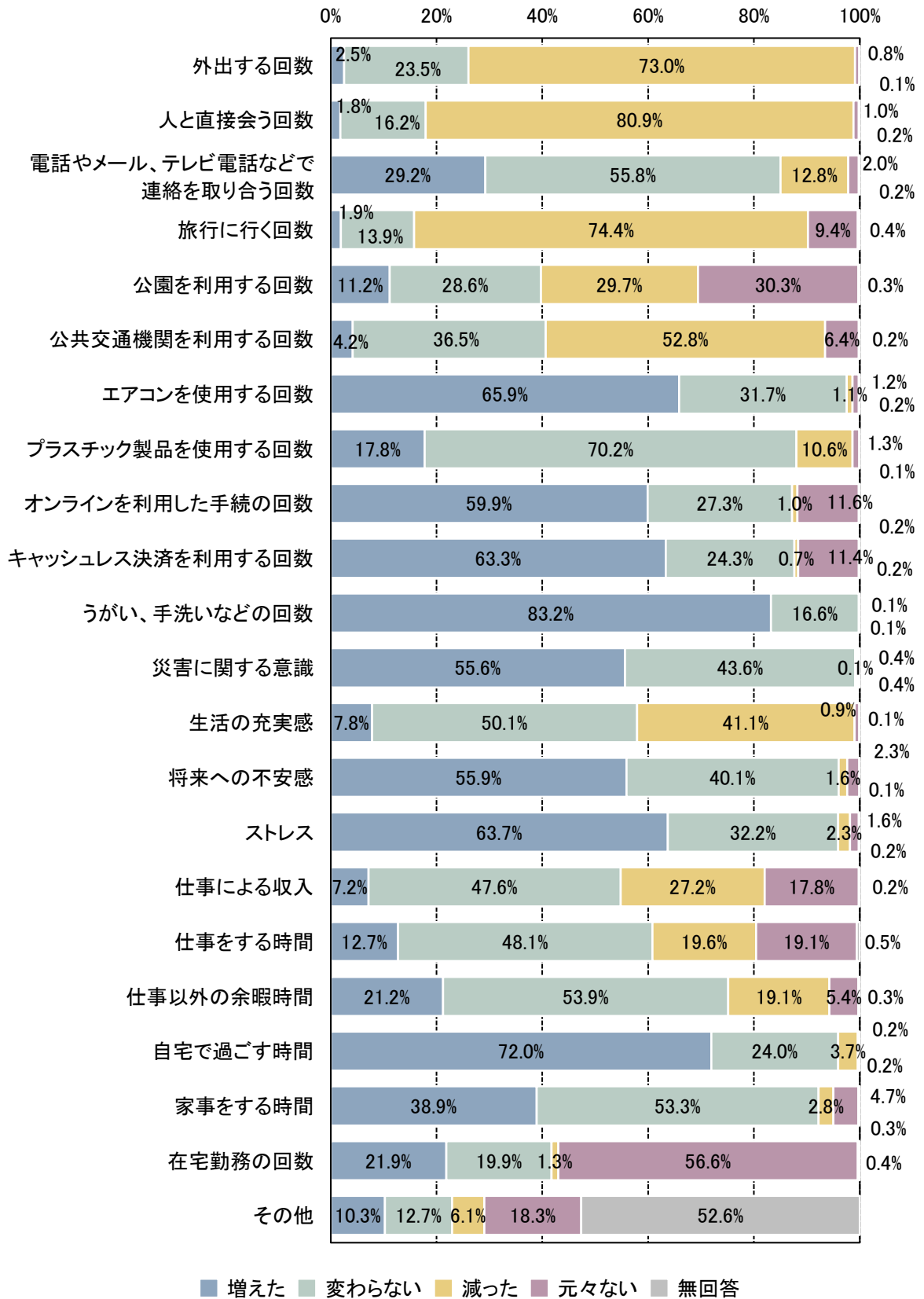
新型コロナウイルス感染症の感染拡大や災害の頻発、気候変動などの社会状況の変化による生活への影響について、2、3年前と現在とを比較して尋ねた。

「増えた」の割合が高いのは、「エアコンを使用する回数」(65.9%)、「うがい、手洗いなどの回数」(83.2%)など、新型コロナウイルス感染症の感染予防にも関連した行動、「オンラインを利用した手続の回数」(59.9%)、「キャッシュレス決済を利用する回数」(63.3%)など、非接触型の生活様式に関連する行動、「自宅で過ごす時間」(72.0%)や「ストレス」(63.7%)など、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う外出抑制に関連すると思われる行動のほか、「災害に関する意識」(55.6%)や「将来への不安感」(55.9%)などである。

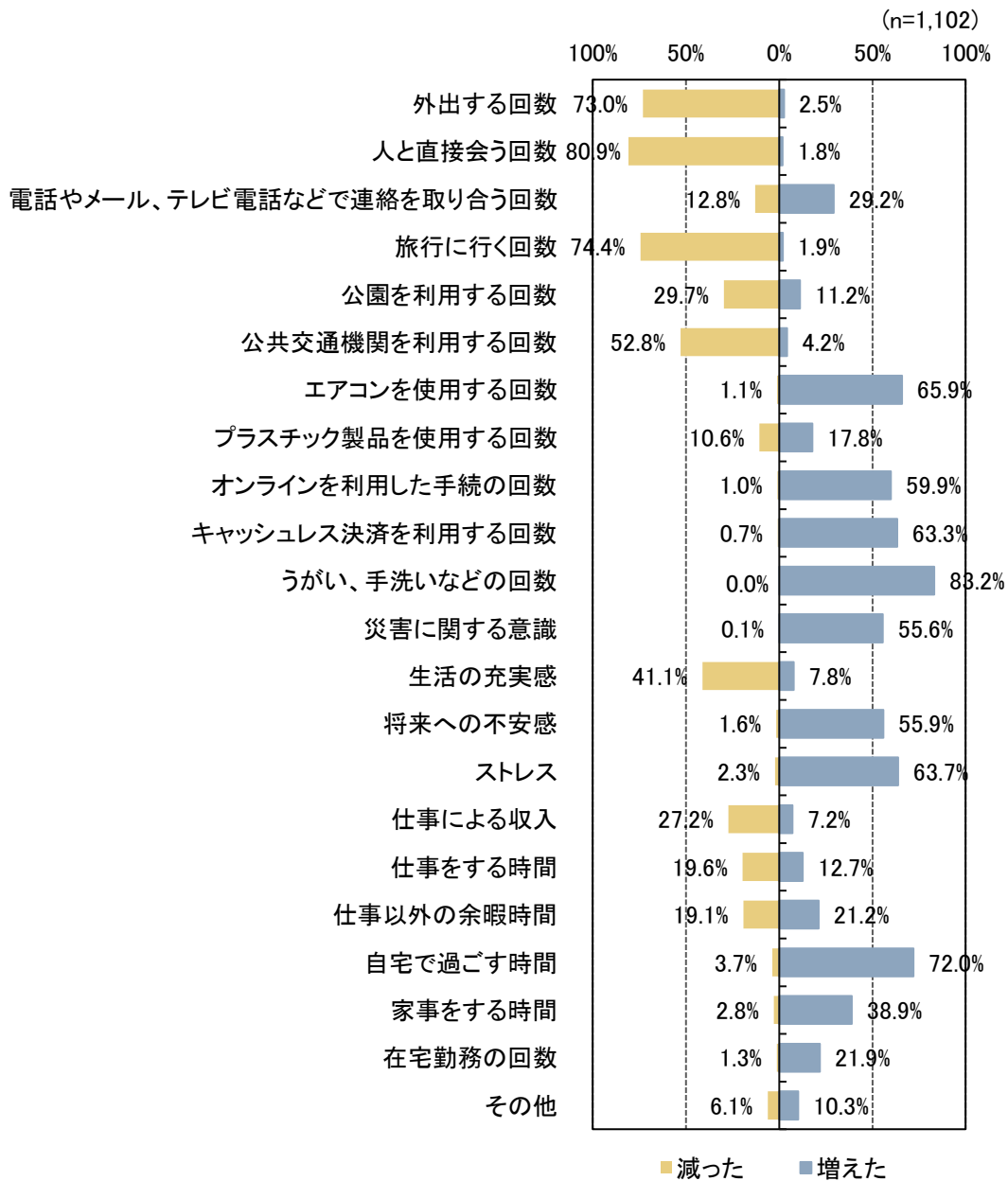
一方、「減った」の割合が高いのは、「外出する回数」(73.0%)、「人と直接会う回数」(80.9%)、「旅行に行く回数」(74.4%)、「公共交通機関を利用する回数」(52.8%)などの新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う外出抑制に関連する行動のほか、「生活の充実感」(41.1%)が減ったとする割合も高い。

なお、「その他」のうち、「増えた」では、家族と(家族だけで)過ごす時間やネットショッピング・ネットスーパーの利用等を挙げる回答が多く、「減った」では、外食や食事会を挙げる回答が多い。

図表 II-9 社会状況の変化による生活への影響



図表 II-10 社会状況の変化による生活への影響(増えた・減ったの比較)



「減った」の割合と「増えた」の割合を比較し、「増えた」の割合が高い項目を年齢別にみると、「電話やメール、テレビ電話などで連絡を取り合う回数」や「オンラインを利用した手続の回数」、「キャッシュレス決済を利用する回数」のほか、「在宅勤務の回数」や「家事をする時間」などが増えたとする割合は、50歳未満までの年代で比較的高い。一方、「うがい、手洗いなどの回数」や「災害に対する意識」などが増えたとする割合は、60歳代以上で比較的高い傾向がみられる。

男女別にみると、「災害に対する意識」「将来への不安感」「ストレス」や「家事をする時間」は、男性よりも女性の方で増えたとする割合が高い。

また、「減った」の割合と「増えた」の割合を比較し、「減った」の割合が高い項目を年齢別にみると、「公共交通機関を利用する回数」が減ったとする割合は60歳代以上で比較的高い。また、60歳代では、「外出する回数」や「仕事による収入」、「仕事をする時間」など、「増えた」よりも「減った」の割合が高い項目の数が、他の年代と比較して多くなっている。

図表 II-11 社会状況の変化による生活への影響（年齢別・男女別）

〔「減った」よりも「増えた」の割合が高い項目〕

(上段:実数、下段:%)

	調査数	電話やメール、テレビ電話などで連絡を取り合う回数	エアコンを使用する回数	プラスチック製品を使用する回数	オンラインを利用した手続の回数	キャッシュレス決済を利用する回数	うがい、手洗いなどの回数	災害に関する意識	将来への不安感	ストレス	仕事以外の余暇時間	自宅で過ごす時間	家事をする時間	在宅勤務の回数	
全体	1,102	322	726	196	660	698	917	613	616	702	234	793	429	241	
	100.0	29.2	65.9	17.8	59.9	63.3	83.2	55.6	55.9	63.7	21.2	72.0	38.9	21.9	
年齢別	18・19歳	22	12	16	9	20	12	17	13	13	6	13	4	4	
		100.0	54.5	72.7	40.9	90.9	54.5	77.3	54.5	59.1	59.1	27.3	59.1	18.2	
	20歳代	90	38	57	15	72	69	69	41	50	59	22	61	41	
		100.0	42.2	63.3	16.7	80.0	76.7	76.7	45.6	55.6	65.6	24.4	67.8	45.6	25.6
	30歳代	164	58	114	40	124	130	128	84	87	99	32	119	80	
		100.0	35.4	69.5	24.4	75.6	79.3	78.0	51.2	53.0	60.4	19.5	72.6	48.8	31.7
	40歳代	221	64	154	44	155	150	185	110	126	142	47	166	102	
		100.0	29.0	69.7	19.9	70.1	67.9	83.7	49.8	57.0	64.3	21.3	75.1	46.2	27.6
	50歳代	235	59	147	37	147	162	196	137	128	154	44	167	83	
	100.0	25.1	62.6	15.7	62.6	68.9	83.4	58.3	54.5	65.5	18.7	71.1	35.3	27.2	
60歳代	153	35	100	22	78	99	138	94	95	100	43	121	57		
	100.0	22.9	65.4	14.4	51.0	64.7	90.2	61.4	62.1	65.4	28.1	79.1	37.3	17.0	
70歳代	167	44	109	22	56	64	145	104	91	107	31	114	50		
	100.0	26.3	65.3	13.2	33.5	38.3	86.8	62.3	54.5	64.1	18.6	68.3	29.9	5.4	
80歳以上	46	10	27	7	6	9	37	27	24	27	9	30	11		
	100.0	21.7	58.7	15.2	13.0	19.6	80.4	58.7	52.2	58.7	19.6	65.2	23.9	0.0	
性別	女性	613	178	413	112	358	399	515	371	379	436	121	453	267	
		100.0	29.0	67.4	18.3	58.4	65.1	84.0	60.5	61.8	71.1	19.7	73.9	43.6	15.5
男性	484	143	310	83	298	295	399	240	234	263	111	338	160		
	100.0	29.5	64.0	17.1	61.6	61.0	82.4	49.6	48.3	54.3	22.9	69.8	33.7	29.5	

(注) クロス集計表の網掛け等は、以下のとおり設定している。(以下同様)

- ・「全体」よりも10ポイント以上構成比が高い項目は**白抜き**
- ・「全体」よりも5ポイント以上構成比が高い項目は**灰色塗りつぶし**
- ・「全体」よりも5ポイント以上構成比が低い項目は**斜体字に下線**
- ・「全体」よりも10ポイント以上構成比が低い項目は**太字に下線**

【「増えた」よりも「減った」の割合が高い項目】

(上段:実数、下段:%)

		調査数	外出する回数	人と直接会う回数	旅行に行く回数	公園を利用する回数	公共交通機関を利用する回数	生活の充実感	仕事による収入	仕事をする時間
全体		1,102	805.0	891	820	327	582	453	300	216
		100.0	73.0	80.9	74.4	29.7	52.8	41.1	27.2	19.6
年齢別	18・19歳	22	12	15	15	11	6	5	4	3
		100.0	54.5	68.2	<i>68.2</i>	50.0	27.3	22.7	<i>18.2</i>	<i>13.6</i>
	20歳代	90	56	65	54	17	31	38	21	11
		100.0	62.2	72.2	60.0	18.9	34.4	42.2	23.3	<i>12.2</i>
	30歳代	164	109	134	112	35	82	65	40	29
		100.0	<i>66.5</i>	81.7	<i>68.3</i>	<i>21.3</i>	50.0	39.6	24.4	<i>17.7</i>
	40歳代	221	162	182	167	78	116	96	64	42
		100.0	73.3	82.4	75.6	35.3	52.5	43.4	29.0	19.0
	50歳代	235	175	193	180	75	116	101	73	54
		100.0	74.5	82.1	76.6	31.9	49.4	43.0	31.1	23.0
60歳代	153	128	129	120	48	98	61	53	40	
	100.0	83.7	84.3	78.4	31.4	64.1	39.9	34.6	26.1	
70歳代	167	130	136	133	49	104	66	40	31	
	100.0	77.8	81.4	79.6	29.3	62.3	39.5	24.0	18.6	
80歳以上	46	31	34	35	13	27	19	4	5	
	100.0	<i>67.4</i>	<i>73.9</i>	76.1	28.3	58.7	41.3	8.7	<i>10.9</i>	
性別	女性	613	464	512	468	187	346	268	155	119
		100.0	75.7	83.5	76.3	30.5	56.4	43.7	25.3	19.4
	男性	484	338	375	348	139	234	181	142	97
		100.0	69.8	77.5	71.9	28.7	48.3	37.4	29.3	20.0

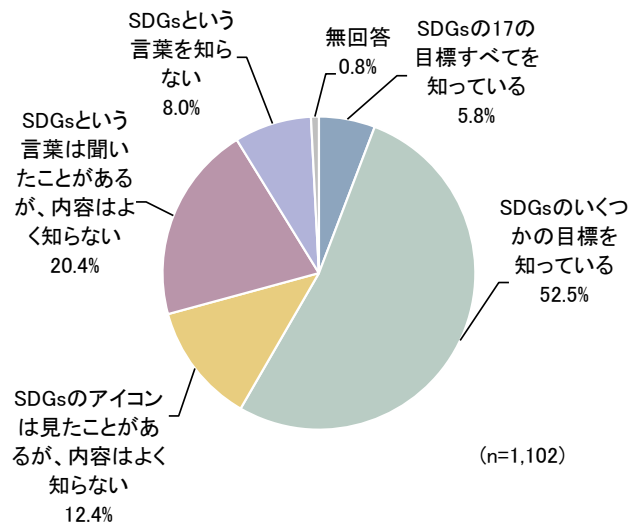
(3) SDGs について

ア SDGs についての認知度

SDGs についての認知状況を尋ねたところ、「SDGs の 17 の目標すべてを知っている」(5.8%)と「SDGs のいくつかの目標を知っている」(52.5%)を合わせて、SDGs の 17 の目標を知っている回答者は約 6 割である。

年齢別に見ると、50 歳代よりも若い年代では比較的認知度が高いものの、70 歳代以上では認知度が低いことがうかがえる。

図表 II-7 SDGs についての認知状況



図表 II-8 SDGs についての認知度(年齢別・男女別)

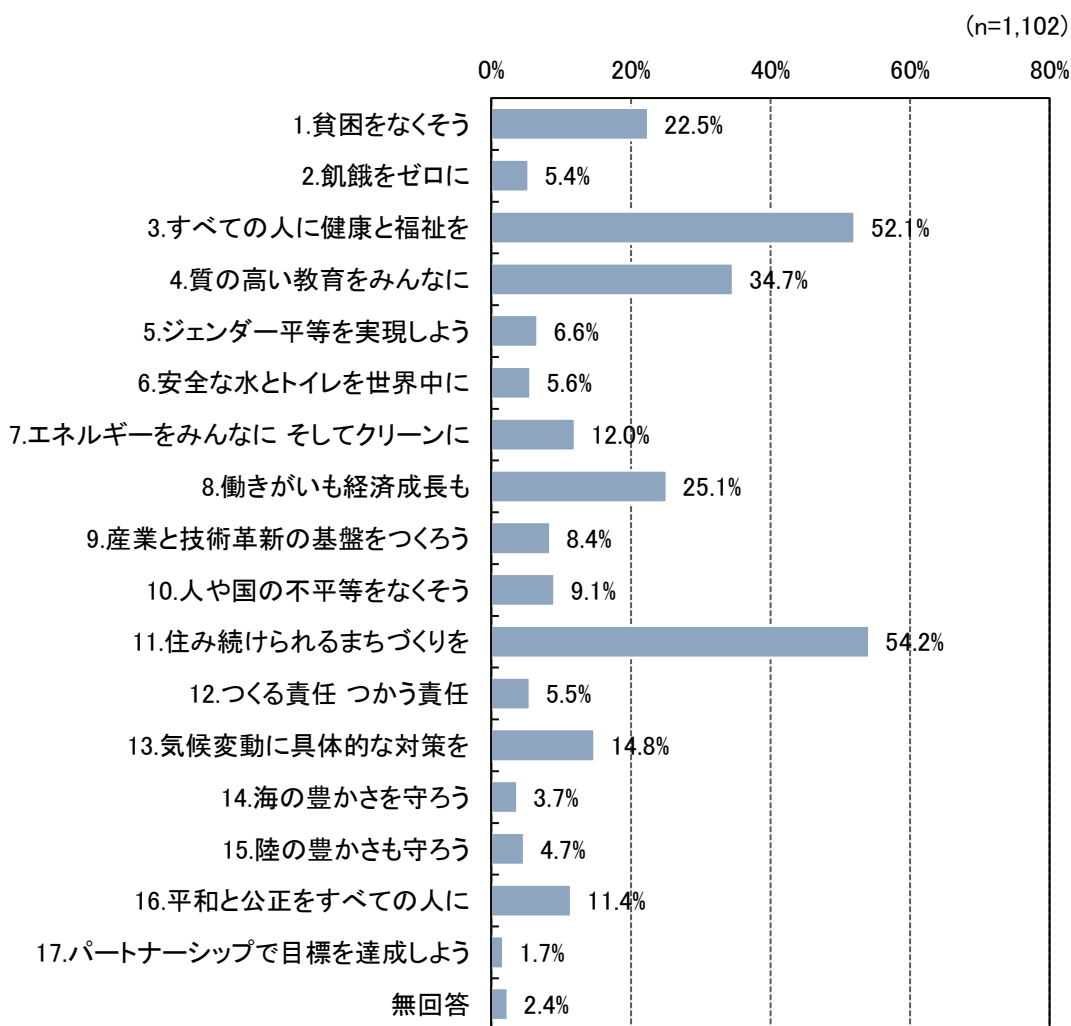
(上段:実数、下段:%)

	調査数	すべてを知ら	目標を知	内容はよく知	聞いたことがあ	聞いたことがあ	知らないとい
		る	っている	く知らない	るが、内容はよく	るが、内容はよく	う言葉
全体	1,102	64	579	137	225	88	
	100.0	5.8	52.5	12.4	20.4	8.0	
年齢別	18・19歳	22	6	13	1	2	0
		100.0	27.3	59.1	4.5	9.1	0.0
	20歳代	90	7	40	24	15	4
		100.0	7.8	44.4	26.7	16.7	4.4
	30歳代	164	12	97	25	25	5
		100.0	7.3	59.1	15.2	15.2	3.0
	40歳代	221	17	115	35	39	15
		100.0	7.7	52.0	15.8	17.6	6.8
50歳代	235	8	145	25	42	13	
	100.0	3.4	61.7	10.6	17.9	5.5	
60歳代	153	10	86	13	29	12	
	100.0	6.5	56.2	8.5	19.0	7.8	
70歳代	167	3	72	9	55	25	
	100.0	1.8	43.1	5.4	32.9	15.0	
80歳以上	46	0	9	4	18	14	
	100.0	0.0	19.6	8.7	39.1	30.4	
性別	女性	613	24	320	86	122	53
		100.0	3.9	52.2	14.0	19.9	8.6
男性	484	40	256	51	101	35	
	100.0	8.3	52.9	10.5	20.9	7.2	

イ 吹田市が特に注力すべき SDGs のゴール

17 ある SDGs のゴールのうち、吹田市が特に注力すべきゴールについては、「11.住み続けられるまちづくりを」(54.2%)と「3.すべての人に健康と福祉を」(52.1%)を選択した回答者が約半数にのぼり、次に「4.質の高い教育をみんなに」(34.7%)、「8.働きがいも経済成長も」(25.1%)が続く。

図表 II-9 吹田市が特に注力すべき SDGs のゴール(複数回答)



年齢別に見ると、「11.住み続けられるまちづくりを」は、年齢が上昇するほど割合が高くなる傾向が見られ、「3.すべての人に健康と福祉を」は特に70歳代以上の割合が高いほか、「1.貧困をなくそう」と「2.飢餓をゼロに」は80歳以上の割合が高い。また、「4.質の高い教育をみんなに」は40歳代以下の割合が高く、「8.働きがいも経済成長も」は30歳代・40歳代でやや割合が高くなっている。

図表 II-10 吹田市が特に注力すべき SDGs のゴール(複数回答/年齢別・男女別)

(上段:実数、下段:%)

	調査数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
		貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	
全体	1,102	248	59	574	382	73	62	132	277	93	
	100.0	22.5	5.4	52.1	34.7	6.6	5.6	12.0	25.1	8.4	
年齢別	18・19歳	22	6	1	11	9	3	2	3	4	
		100.0	27.3	4.5	50.0	40.9	13.6	9.1	13.6	18.2	9.1
	20歳代	90	17	3	42	33	9	7	14	26	
		100.0	18.9	3.3	46.7	36.7	10.0	7.8	15.6	28.9	8.9
	30歳代	164	33	7	74	82	14	6	13	55	
		100.0	20.1	4.3	45.7	50.0	8.5	3.7	7.9	33.5	12.8
	40歳代	221	46	6	100	94	7	11	29	67	
		100.0	20.8	2.7	45.2	42.5	3.2	5.0	13.1	30.3	7.7
	50歳代	235	48	14	127	72	14	13	30	66	
		100.0	20.4	6.0	54.0	30.6	6.0	5.5	12.8	28.1	10.2
60歳代	153	39	9	83	41	12	10	15	30		
	100.0	25.5	5.9	54.2	26.8	7.8	6.5	9.8	19.6	4.6	
70歳代	167	42	12	104	43	12	6	23	26		
	100.0	25.1	7.2	62.3	25.7	7.2	3.6	13.8	15.6	7.8	
80歳以上	46	16	7	31	7	1	7	4	3		
	100.0	34.8	15.2	67.4	15.2	2.2	15.2	8.7	6.5	2.2	
性別	女性	613	139	33	335	194	35	40	73	150	
		100.0	22.7	5.4	54.6	31.6	5.7	6.5	11.9	24.5	4.6
	484	107	26	235	186	36	22	59	126		
	100.0	22.1	5.4	48.6	38.4	7.4	4.5	12.2	26.0	13.4	

(上段:実数、下段:%)

	調査数	10	11	12	13	14	15	16	17	
		人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任とつかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公正	パートナーシップによる持続可能な開発	
全体	1,102	100	597	61	163	41	52	126	19	
	100.0	9.1	54.2	5.5	14.8	3.7	4.7	11.4	1.7	
年齢別	18・19歳	22	1	8	1	2	4	2	1	
		100.0	4.5	36.4	4.5	9.1	18.2	9.1	4.5	9.1
	20歳代	90	10	43	3	11	1	6	8	
		100.0	11.1	47.8	3.3	12.2	1.1	6.7	8.9	3.3
	30歳代	164	9	91	11	13	1	8	21	
		100.0	5.5	55.5	6.7	7.9	0.6	4.9	12.8	3.0
	40歳代	221	23	126	9	29	13	11	24	
		100.0	10.4	57.0	4.1	13.1	5.9	5.0	10.9	2.7
	50歳代	235	20	120	12	39	8	10	28	
		100.0	8.5	51.1	5.1	16.6	3.4	4.3	11.9	0.4
60歳代	153	10	98	13	24	6	9	18		
	100.0	6.5	64.1	8.5	15.7	3.9	5.9	11.8	0.0	
70歳代	167	24	81	11	40	8	5	19		
	100.0	14.4	48.5	6.6	24.0	4.8	3.0	11.4	0.6	
80歳以上	46	3	28	1	5	0	1	6		
	100.0	6.5	60.9	2.2	10.9	0.0	2.2	13.0	2.2	
性別	女性	613	62	332	41	107	19	26	80	
		100.0	10.1	54.2	6.7	17.5	3.1	4.2	13.1	2.1
	484	38	262	20	56	22	25	46		
	100.0	7.9	54.1	4.1	11.6	4.5	5.2	9.5	1.2	

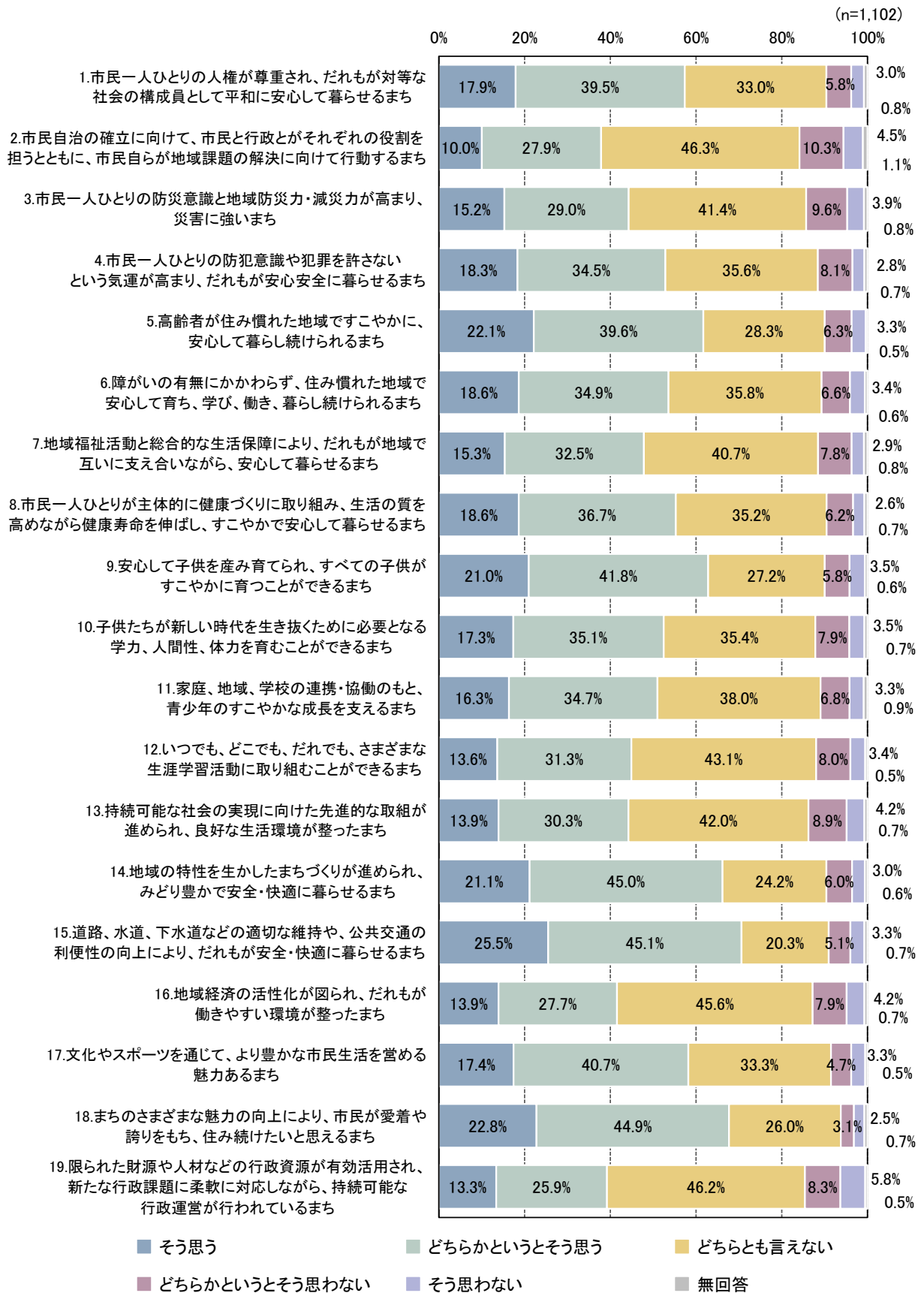
(4) 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度

総合計画の19のめざすまちの姿について、それぞれに近づいていると思うかを尋ねた。

「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計をみると、「15.道路、水道、下水道などの適切な維持や、公共交通の利便性の向上により、だれもが安全・快適に暮らせるまち」（70.6%）の割合が最も高く、次に「18.まちのさまざまな魅力の向上により、市民が愛着や誇りをもち、住み続けたいと思えるまち」（67.7%）、「14.地域の特性を生かしたまちづくりが進められ、みどり豊かで安全・快適に暮らせるまち」（66.2%）が続く。

一方で、「そう思う」と「どちらかというと思う」の割合が低いものは、「19.限られた財源や人材などの行政資源が有効活用され、新たな行政課題に柔軟に対応しながら、持続可能な行政運営が行われているまち」（39.2%）、「2.市民自治の確立に向けて、市民と行政とがそれぞれの役割を担うとともに、市民自らが地域課題の解決に向けて行動するまち」（37.8%）である。

図表 II-11 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度(市民アンケート)



「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計を年齢別に見ると、いずれもサンプル数は少ないが、18・19歳と80歳以上で、総じて割合が高い。また、20歳代では、「7.地域福祉活動と総合的な生活保障により、だれもが地域で互いに支え合いながら、安心して暮らせるまち」や「11.家庭、地域、学校の連携・協働のもと、青少年のすこやかな成長を指せるまち」、「13.持続可能な社会の実現に向けた先進的な取組が進められ、良好な生活環境が整ったまち」、「16.地域経済の活性化が図られ、だれもが働きやすい環境が整ったまち」の割合が、全体を10ポイント上回っている。

また、18歳未満の子供と同居している回答者では、「9.安心して子供を産み育てられ、すべての子供がすこやかに育つことができるまち」、「11.家庭、地域、学校の連携・協働のもと、青少年のすこやかな成長を支えるまち」、「14.地域の特性を生かしたまちづくりが進められ、みどり豊かで安全・快適に暮らせるまち」など、子育て環境としてのメリットに関連する項目の割合が、全体よりもやや高くなっている。

図表 II-12 総合計画の19のめざすまちの姿に対する評価（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計/年齢別・男女別・18歳未満の子供との同居の有無別）

		(上段:実数、下段:%)							
	調査数	1 ちとれ市 し、民 てだ一 平れ人 和もひ にがと 安対リ 心等の しな人 して社 暮らの 尊会が せ構重 る成さ ま員	2 決と行市 にも政民 向にと自 け、が治 て市その 行民れ確 動自ぞ立 するがの るが地向 ち地域割 課を、 題担市 のう民 解と	3 強防市 い災民 まカー ち・人 減ひ 災と 力の が防 ま災 り意 識と 害地 に域	4 だを市 れ許民 もさ一 がな人 安いひ 心とと 安いリ 全うの に気防 暮運犯 らが高 せ高識 るまや まり犯 、罪	5 まか高 ちに齡 、者 安が住 心しみ て慣れ 暮らた し地域 ですこ るや	6 び慣障 、れが 働たい き地の 、域有 、暮で無 ら安にか し心か 続してわ けられ育 るち、 ま学、 ち住 み	7 まえに地 ち合よ域 り福 な、社 がだ活 られ動 、もと 安が地 心地合 して域的 てでな 暮互生 らいい せに保 る支障	
全体	1,102	632	417	488	582	680	590	527	
	100.0	57.4	37.8	44.3	52.8	61.7	53.5	47.8	
年齢別	18・19歳	22	18	11	15	15	17	18	
		100.0	81.8	50.0	68.2	68.2	77.3	81.8	81.8
	20歳代	90	54	36	34	56	62	49	
		100.0	60.0	40.0	37.8	62.2	68.9	54.4	58.9
	30歳代	164	100	55	70	85	97	79	
		100.0	61.0	33.5	42.7	51.8	59.1	48.2	45.1
	40歳代	221	118	81	89	103	136	113	
		100.0	53.4	36.7	40.3	46.6	61.5	51.1	42.5
	50歳代	235	124	84	99	120	135	123	
		100.0	52.8	35.7	42.1	51.1	57.4	52.3	46.0
60歳代	153	94	57	71	77	94	82		
	100.0	61.4	37.3	46.4	50.3	61.4	53.6	41.2	
70歳代	167	95	73	84	96	103	94		
	100.0	56.9	43.7	50.3	57.5	61.7	56.3	51.5	
80歳以上	46	27	19	24	28	33	30		
	100.0	58.7	41.3	52.2	60.9	71.7	65.2	63.0	
性別	女性	613	363	239	253	322	375	333	
		100.0	59.2	39.0	41.3	52.5	61.2	54.3	48.6
	484	268	178	235	260	304	256		
	100.0	55.4	36.8	48.6	53.7	62.8	52.9	46.9	
同居家族	18歳未満の子供が いる	309	184	119	133	159	203	165	
		100.0	59.5	38.5	43.0	51.5	65.7	53.4	47.9
	791	447	298	354	422	475	424		
	100.0	56.5	37.7	44.8	53.4	60.1	53.6	47.8	

(上段:実数、下段:%)

		調査数	8 市民一人ひとりが安心して暮らすための健康寿命を伸ばすこと	9 安心して子育てができる環境を整ったまち	10 子供たちが新しい時代を生き抜くために必要となる学力、人間性、体力を育むことができるまち	11 家庭、地域、学校の連携・協働を支えるまち	12 いつでも、どこでも、だれでも、さまざまな生涯学習活動に取り組むこと	13 持続可能な社会の実現に向けた先進的な取り組みの進められ、良好な生活環境が整ったまち
全体		1,102 100.0	609 55.3	692 62.8	578 52.5	562 51.0	495 44.9	487 44.2
年齢別	18・19歳	22 100.0	18 81.8	18 81.8	15 68.2	15 68.2	14 63.6	14 63.6
	20歳代	90 100.0	55 61.1	56 62.2	53 58.9	56 62.2	43 47.8	49 54.4
	30歳代	164 100.0	84 51.2	106 64.6	75 45.7	80 48.8	68 41.5	72 43.9
	40歳代	221 100.0	110 49.8	146 66.1	114 51.6	109 49.3	92 41.6	85 38.5
	50歳代	235 100.0	137 58.3	147 62.6	126 53.6	118 50.2	105 44.7	97 41.3
	60歳代	153 100.0	78 51.0	89 58.2	81 52.9	79 51.6	71 46.4	72 47.1
	70歳代	167 100.0	94 56.3	94 56.3	84 50.3	81 48.5	72 43.1	74 44.3
	80歳以上	46 100.0	30 65.2	35 76.1	29 63.0	24 52.2	30 65.2	24 52.2
性別	女性	613 100.0	337 55.0	387 63.1	312 50.9	316 51.5	278 45.4	265 43.2
	男性	484 100.0	271 56.0	305 63.0	266 55.0	246 50.8	217 44.8	222 45.9
同居家族	18歳未満の子供がいる	309 100.0	174 56.3	217 70.2	167 54.0	177 57.3	138 44.7	145 46.9
	18歳未満の子供がいない	791 100.0	433 54.7	475 60.1	411 52.0	385 48.7	357 45.1	342 43.2

(上段:実数、下段:%)

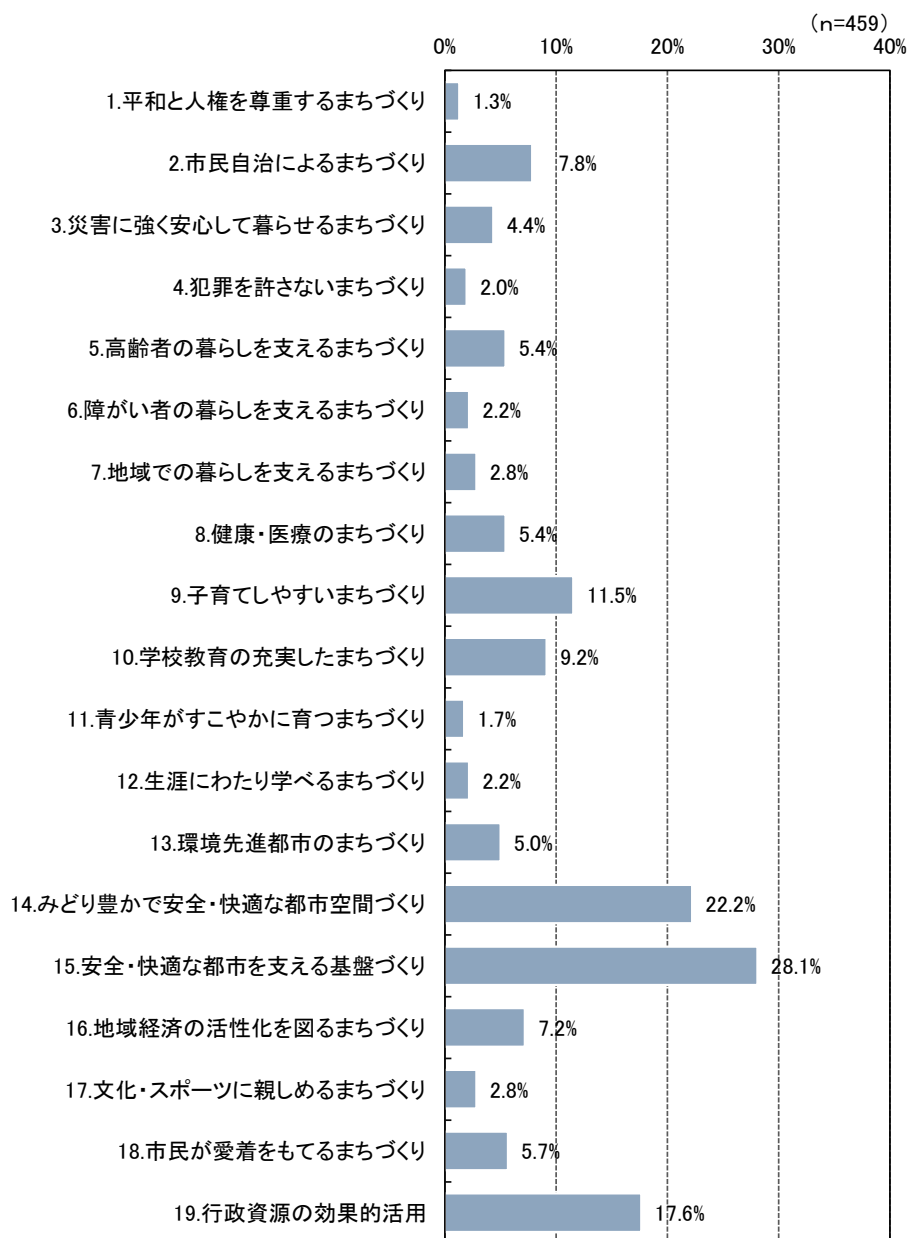
		調査数	14 地域の特性を生かしたまちづくり が進められ、みどり豊かで安全・ 快適に暮らせるまち	15 道路、水道、下水道などの適切な 維持や、公道の安全・快適に暮 らせるまち	16 地域経済の活性化が図られ、だ れも働きやすい環境が整ったま ち	17 文化やスポーツを通じて、よりま ちな市民生活を営める魅力あるま ち	18 まちなみや愛着や誇りをもち、住 み続けたいと思えるまち	19 限られた財源や人材などの行政課 題に有効に対応し、新たな行政課 題に柔軟な活用がなされているま ち
全体		1,102 100.0	729 66.2	778 70.6	458 41.6	641 58.2	746 67.7	432 39.2
年齢別	18・19歳	22 100.0	15 68.2	19 86.4	13 59.1	16 72.7	17 77.3	8 36.4
	20歳代	90 100.0	63 70.0	68 75.6	48 53.3	58 64.4	63 70.0	43 47.8
	30歳代	164 100.0	113 68.9	111 67.7	63 38.4	90 54.9	107 65.2	52 37.7
	40歳代	221 100.0	147 66.5	156 70.6	85 38.5	119 53.8	142 64.3	80 36.2
	50歳代	235 100.0	163 69.4	169 71.9	100 42.6	143 60.9	161 68.5	93 39.6
	60歳代	153 100.0	92 60.7	105 68.6	56 36.6	84 54.9	113 73.9	59 38.6
	70歳代	167 100.0	101 60.5	114 68.3	70 41.9	96 57.5	107 64.1	72 43.1
	80歳以上	46 100.0	33 71.7	33 71.7	22 47.8	32 69.6	34 73.9	25 54.3
性別	女性	613 100.0	426 69.5	427 69.7	252 41.1	351 57.3	436 71.1	243 39.6
	男性	484 100.0	302 62.4	349 72.1	206 42.6	289 59.7	310 64.0	189 39.0
同居家族	18歳未満の子供が いる	309 100.0	226 73.1	224 72.5	134 43.4	183 59.2	220 71.2	124 40.1
	18歳未満の子供が いない	791 100.0	501 63.3	552 69.8	324 41.0	456 57.6	525 66.4	308 38.9

(5) 吹田市のまちづくりに対する意見

吹田市のまちづくりに対する意見（自由記述）を尋ねたところ、現行総合計画の施策体系に分類可能な意見は459件であった。

政策単位の内訳をみると、「15.安全・快適な都市を支える基盤づくり」に関する意見の割合（28.1%）が最も高く、次に「14.みどり豊かで安全・快適な都市空間づくり」（22.2%）、「19.行政資源の効果的活用」（17.6%）に関する意見の割合が高い。

図表 II-13 まちづくりに対する意見の政策別分類結果（複数回答）



(注) 1つの意見に複数の政策に関連する内容が含まれる場合は、それぞれの政策に1件ずつ計上している。